

化学療法指示書

登録番号 107

CDDP + VNB + cTRT 4週毎 4コース

ID:				
氏名			指示者	
身長	cm	体重	kg	体表面積
				m ²

・非小細胞肺癌

CDDP (cisplatin、シスプラチン) 80mg/m² = ()mg/body day1
 VNB (vinorelbine、ロゼウス) 20mg/m² = ()mg/body day1,8
 ※放射線は、Day2より開始。 Total 60Gy/30Fr.

※内服薬

Day1: アブレピタント125mg 1cap ルート確保時に
 Day2,3: アブレピタント80mg 1cap 朝食後
 Day2~4: デカドロン4mg 2錠 朝食後

コース目 月 日 (day 1)

生理食塩液100ml ルート確保・フラッシュ用

パロノセトロン注(0.75mg) 1袋
 デキサート(6.6mg) 1A
 デキサート(1.65mg) 2A

ルート確保時に
 アブレピタント125mg 1cap内服

15分

生理食塩液 50mL
 ロゼウス ()mg

5分

KN3号500mL
 硫酸マグネシウム補正液 8 mL

90分

KN3号500mL

90分

マンニトールS300mL

フロセミド(20mg) 1A
 (マンニトールS終了後、i.v.)

30分

生理食塩液 500mL
 シスプラチン ()mg
 (全量500mLとする)

120分

生理食塩液 500mL

90分

KN3号500mL

90分

コース目 月 日 (day 8)

生理食塩液100ml ルート確保・フラッシュ用

グラニセトロン注(3mg/50mL) 1袋

15分

生理食塩液 50mL
ロゼウス ()mg

5分

生理食塩液 100mL

15分

◆ 嘔気時:(開始後28日目)まで 適宜下記を投与

- 1) グラニセトロン注(3mg/50mL)1袋+エリーテン(10 mg) 1A 点滴静注(30分)
(1日に2回まで)
- 2) 生食100 mL+デキサート(6.6mg)1A+エリーテン(10 mg)1A 点滴静注(60分)
(1日に1回まで)

◆ 投与開始基準

第1コースday1開始基準	day8開始基準	第2コース以降day1開始基準
PS:0-1	PS:0-1	PS:0-1
WBC \geq 4000	WBC \geq 2000	WBC \geq 3000
NEU \geq 2000		NEU \geq 1500
Hb \geq 9.5		
PLT \geq 100000	PLT \geq 75000	PLT \geq 100000
AST/ALT \leq 100/112	AST/ALT \leq 100/112	AST/ALT \leq 100/112
感染を伴う38℃以上の発熱がない	感染を伴う38℃以上の発熱がない	感染を伴う38℃以上の発熱がない
クレアチニンが正常値以下	クレアチニンが正常値以下	クレアチニンが正常値以下
肺毒性Gr 1以下	肺毒性Gr 1以下	肺毒性Gr 1以下

第2コース以降の投与量減量基準		
前コースの毒性	VNB	CDDP
WBC<1000	20→15	変更無し
PLT<20000	20→15	変更無し
38℃以上の発熱を伴うGr3以上のNue減少	20→15	変更無し
Cre>施設正常値の1.5倍	変更無し	80→60

放射線休止・再開基準		
項目	休止基準	再開基準
WBC	1000 未満	2000 以上
NEU	500 未満	1000 以上
PLT	25000 未満	75000 以上
発熱	38℃以上(注1)	37℃以下
非血液毒性(悪心・嘔吐・食欲不振を除く)	G3 以上	G2 以下
皮膚炎	G3 以上	G2 以下
肺臓炎	動脈血酸素分圧が治療前値より10 torr以上下がった場合、あるいはG2の肺臓炎の徴候が見られた場合	明らかな肺臓炎症例には放射線治療は再開しない。

注1)但し、経過上感染症および肺臓炎が否定されれば続行する